

あなたのお金を守る！詐欺と闘う銀行の工夫！

「還付金があるので、ＡＴＭで手続きが必要です」、「逮捕状が出ているので、調査のためにお金を振り込んでください」、こんな電話を受けたことありますか？これらは全て詐欺です！詐欺の手口は日々多様化・巧妙化しており、被害が後を絶ちません。お客さまの大切なお金を守るため、地方銀行は詐欺を未然に防ぐ工夫を凝らしたユニークな取り組みを行っています。

関西みらい銀行



最優秀賞作品（阿倍野阪南出張所）：サギと詐欺をかけている！

1 行員がいないＡＴＭでも詐欺を防止

「大事なお金 渡したらアカン！」と、お客さまに訴える鮮やかなシャッターアートが、大阪府に本店を置く関西みらい銀行の阿倍野阪南出張所にあります。これは、大阪府で多発する還付金詐欺等を防止するために制作されたものです。

銀行の支店であれば、携帯電話で話しながらＡＴＭを操作するお客さまに行員がお声掛けし、詐欺を未然に防ぐことができますが、無人のＡＴＭ出張所では、お声掛けができず被害が発生しやすいと言われています。こうした課題の解決と、出張所内で閉じたままになっていた店内シャッターの有効活用のため、シャッターに詐欺被害防止をテーマにしたアートを実施することにしました。

2 大阪芸術大学による作品

シャッターアート制作にあたり、大阪芸術大学デザイン学科２年生から作品を募集しました。ただ、「詐欺被害防止をテーマにしたアートを募集します」ではイメージが湧かないと考えた同行は、2024年10月の募集開始時に、大阪府警察と連携し、学生に詐欺の実態を理解してもらうためのガイダンスを実施しました。

その後、約１か月半の募集期間で、全16点の力作が集まり、分かりやすさとインパクトの観点から、最優秀賞１作品、優秀賞２作品を選定しました。



優秀賞作品（南海浅香山出張所）：表情が悲しい…。関西みらい銀行提供。



優秀賞作品（藤が尾出張所）：警察官が飛び出てきて注意喚起！関西みらい銀行提供。

3 アピール抜群のシャッターアート

シャッターアートを施すことになった３つの出張所は、お客さまが詐欺だと気付かずにＡＴＭでお金を振り込んでしまったことのある出張所です。その迫力のある大きさとともに、カラフルかつポップに詐欺被害防止を強くアピールするシャッターアートにより、実際に被害が発生してしまった出張所でこれ以上、被害を出したくないという想いが込められています。

冒頭でご紹介した阿倍野阪南出張所で見られる最優秀賞の作品は、鳥のサギが、高齢者からお金を巻き上げる様子を、「大事なお金 渡したらアカン！」という大阪らしい文言を添えながら、コミカルかつ大胆に表現しています。優秀賞の２作品も、ＡＴＭの前で電話をしているお客さまの姿をベースに、犯人と警察の姿も描きながら、「その電話、だいじょうぶ？」（南海浅香山出張所）、「それ詐欺です！」（藤が尾出張所）のメッセージを発信しており、銀行の利用者や通行人の視覚に訴える作品となっています。

2025年２月、シャッターアートのお披露目イベントを開催したところ、マスコミに特徴的な取り組みとして取りあげられました。また、受賞作品を掲載したポケットティッシュを作成し、イベントで配布するなど、シャッターアートにとどまらず、積極的に詐欺被害に対する注意喚起を行っています。

4 大阪府警察との連携

大阪府では、特殊詐欺被害が急増し、2024年には、認知件数が2,644件、被害額は約61億円と過去最悪の被害状況になってしまいました。こうした状況を踏まえ、同行と大阪府警察は連携を強化しており、今回ご紹介したシャッターアートの設置の他、来店されるお客さまへの特殊詐欺防止の呼びかけの実施、還付金詐欺防止のためのＡＴＭコーナー床面へのトリックアートの設置など、「詐欺被害防止のために、できることは何でもやる！」という気持ちで、各種の対策を組み合わせ注意喚起に取り組んでいます。



大阪府警が提供しているトリックアートもあわせて設置。

常陽銀行・筑波銀行



第1弾「SNSで知り合った人にお金を預けていませんか？」常陽銀行・筑波銀行提供。

1 ドラマで気づく、詐欺のリアル——その手口、もう他人事じゃない

「SNSで知り合った人にお金を預けていませんか?」、「だまされるな！茨城県民！」と呼びかける啓発動画が茨城県民に向けて配信されました。これは、茨城県に本店を置く常陽銀行と筑波銀行が、茨城県警察および県内の他の金融機関（水戸信用金庫・結城信用金庫・茨城県信用組合）と連携して制作したものです。

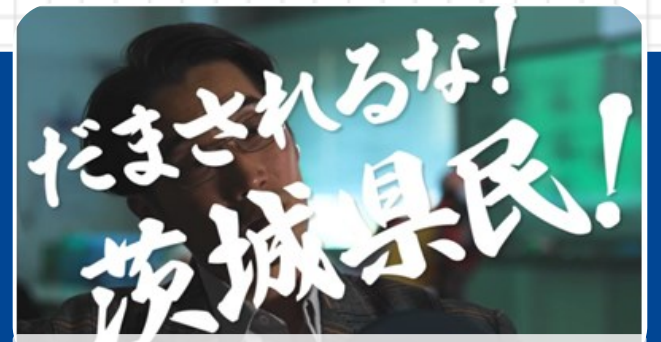
茨城県警察と常陽銀行、筑波銀行を含む上記の金融機関は、「『地域の安全・安心』に関する包括連携協定」を締結しています（2025年４月からは茨城県信用農業協同組合連合会（ＪＡバンク茨城県信連）も参画）。この一環として、茨城県民に日々多様化・巧妙化する詐欺の手口を周知し、注意を促すため、印象に残るドラマ仕立ての啓発動画を制作しました。

2 第1弾「SNSで知り合った人にお金を預けていませんか？」

2024年７月、茨城県内での投資・ロマンス詐欺の被害増加を受け、第１弾として、投資専門家を装い、投資話を信じ込ませて金銭をだまし取る手口を紹介する動画を制作。スマホ上のSNSのメッセージ画面と、被害者の表情・姿を細かく切り替えながら、被害者が投資にのめり込み、最終的に金銭をだまし取られていたことに気付く様子を、臨場感たっぷりに表現しています。

これを広告動画として、35歳以上の茨城県民をターゲットに、FacebookとInstagramで発信。「会ったこともない人にお金を渡さない・送金しない」等の注意喚起のメッセージを発信しています。

本動画は、配信後３か月間で約26万回再生され、両行によると、投資詐欺に遭いやすい高齢者も含めて注意喚起ができたそうです。



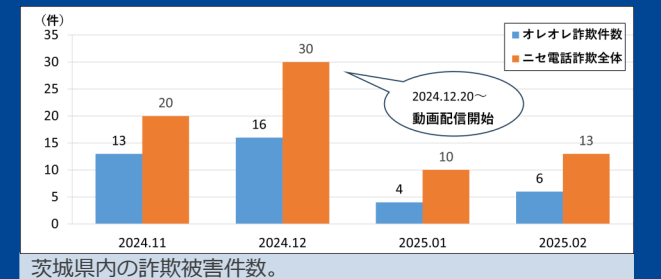
第2弾「だまされるな！茨城県民！」常陽銀行・筑波銀行提供。

3 第2弾「だまされるな！茨城県民！」

2024年12月、第２弾として、警察官と信じ込ませて金銭をだまし取る詐欺手口を紹介する動画を制作。警察を騙る詐欺師グループが、「逮捕状が出てますよ～と言えば、コロッとだまされてくれる」と自身の詐欺手法を自慢しているところに、警察が乗り込んできます。「二セ警察官にだまされるな!」と、「警察官がSNSやビデオ通話で連絡をとることはない」、「お金を振り込ませることはない」、「SNSを使い逮捕状等の画像を送ることはない」ことを強くアピールしています。

これを広告動画として、茨城県民に対し、第１弾よりも対象者の年齢を引き下げてFacebook、Instagram、YouTubeで発信。若年層による犯罪への加担を防ぐことも狙っています。

本動画は、配信後３か月間で約17万回再生され、県内の2025年１月～２月の二セ電話詐欺被害件数が、2024年11月～12月と比較して54%減少するなど、非常に大きな効果が出ています。



4 実際に動画が防いだ詐欺被害

実際、被害の未然防止に繋がった例もあります。常陽銀行の店内で、啓発動画「だまされるな！茨城県民！」を流していたところ、お客さまが、「自身の状況と同じだ！だまされている!」と気づき、お金を振り込むことをやめたそうです。また、筑波銀行では、２つの啓発動画を店内で流していたところ、お客さまからフィッシングメールに関する相談が寄せられるなど、詐欺が身近な場所でも発生するという認識の向上に大いに繋がっているとのこと。

両行は、犯罪のトレンドは変わりやすいため、未然の被害防止のためには時代に即した取り組みをタイムリーに展開することが重要と強調します。啓発動画の第３弾の検討も進行中です！